

# 特集

## 世界天文年 2009 のスタートにあたり

あまり天体のことを知らない人に、望遠鏡で月を見てもらおうと、ほとんど必ず「うわっ、きれい。クレーターが見える」という反応が返ってきます。また木星を見てもらおうと、近くに小さい星(衛星)があることに気がつき、不思議がってくれます。

これらのことこそ、ガリレオ・ガリレイが望遠鏡で天体を見たときの最初の感動と同じものなのでしょう。

ガリレオが望遠鏡で天体を見て 400 年が経ち、また我々の天文教育普及研究会が創立されて 20 年が経ちました。この 400 年の間、ガリレオに続く人々によって更なる発見が行われ、我々の宇宙の認識は広がりました。また当会が持つ 20 年の歴史においても、ささやかながら、この種の感動を広げることが出来たと自負しています。

今後の 20 年、また 400 年に、天文や天文教育普及にどのような展開があるのか、今の私たちには知る由もありません。しかしながら、今回の世界天文年 2009 の色々なイベントが、更に多くの人々に「うわっ」という感動を与え、今後の天文・天文教育普及に大きな影響を残すことは確かなことでしょう。

世界天文年 2009 が成功裡に終わることを願っています。

松村雅文 (天文教育普及研究会 会長  
世界天文年 2009 日本委員会 日本委員)



皆さんも、幾度となく「なぜ天文学が必要なのか、なぜ天文教育が重要なのか」について議論したことがあると思います。その答の一つが、世界天文年 IYA2009 のテーマ"THE UNIVERSE: YOURS TO DISCOVER (宇宙・・・解き明かすのはあなた)"に見つけることができます。宇宙は、多様な発見の場です。私たちが解き明かすものは、「137 億年の時間」と「470 億光年に及ぶ空間」であることは自明ですが、「人類として大切にしなければならないものや目指さなければならないもの」、そして「個々の人それぞれのなかの新しい自分の発見」も含まれるのではと、私は解釈しています。

私が初めて天文に関心を抱いたのは 6 歳の時でした。七夕の夜、布団に横たわりながら父とともに、窓の外の世界を眺めたのを今でも鮮明に覚えています。あれから 40 年が過ぎました。この間で体験してきたさまざまな天文学、そして天文を介して出会ったたくさんの方々、魅惑的で探求意欲をかき立てる天体や天文現象・・・、みんなみんな私の宝物です。ガリレオが人類史上初めて望遠鏡で天体を見てから 400 年、その 10 分の 1 の時間を私が天文とともにあったことに、今更ながらに驚き、そして感謝しています。

今年は、天文教育普及研究会が発足してちょうど 20 周年の年でもあります。これを機に、これまで以上に多くの皆さんとともに宇宙を知る喜びを共有し、そしてその感動を次世代につなげていくことに、改めて決意をしたいと思います。

高橋淳 (世界天文年 2009 日本委員会企画委員)

今年 2009 年は「世界天文年」です。ガリレオが望遠鏡で天文学史上の様々な発見を行ってから 400 年を記念して、日本だけでなく、世界中でいろいろなイベントが行われます。

わたしが初めて望遠鏡をのぞいたのは 10 歳のときでした。最初に見たのは、もちろん月。そして、太陽。その次に木星とかなると、ガリレオの追体験となるわけですが、残念ながら、ただの恒星でした。それでも、「初めて望遠鏡で星を見た」という体験はいまだに記憶に残っています。たぶん、「望遠鏡をのぞく」という体験をした人は同じような経験を踏んできたのではないのでしょうか？そして、いまだ、望遠鏡で星を見たことがない方。今からでも遅くなりません。この「世界天文年」という記念すべき年に、望遠鏡を使って、いろいろな天体をのぞいてみませんか。きっと、心に残ると思います。

また、今年天文教育普及研究会が発足して 20 周年です。わたしが、この会に参加したのは 22 歳のときでした。それから 20 年がたちました。その間、いろいろな人に出会い、たくさんの星を見て、さまざまな活動に関わってきました。この会は、今のわたしの天文教育普及のスタンスに影響を与えてきたと言っても過言ではありません。

世界天文年の企画委員会からも天文教育普及研究会の役割は大いに期待されています。「日食企画」「アジアの星」「天文教育シンポジウム」など、ほかにも、この会が関わっているイベント・企画があります。それに参加するもいいし、自分で企画を作り出してもいいです。ぜひとも、この「世界天文年」に飛び込み、あなた自身も楽しんでいきましょう。

「世界天文年」を造るのはあなた自身です。

矢治健太郎（天文教育普及研究会  
世界天文年ワーキンググループ代表）

## 会員のみなさまへ

世界天文年 2009 に向け、当会としてもワーキンググループの設置や、日本委員会への委員参加など、さまざまな形で準備を進めてまいりました。

いよいよ 2009 年が始まり、本会として、また各地での取り組みが本格的にスタートするのにあたり、当会として世界天文年 2009 を推進する代表からのメッセージをみなさまにお伝えいたしました。

今年当会としても 20 周年を迎える節目の年であります。世界天文年 2009 という、天文教育普及の大きなチャンスでもあるいま、改めてさまざまな取り組みを行うとともに、これまでを振り返りつつ、多くのアイデアで新たな活動に結びつけていただければ幸いです。

今年 1 年が、みなさまにとって、よい年になることを祈念いたします。

